

科目名		人間学特講（SR）	
担当教員		一ノ瀬 正樹 次田 瞬	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学・倫理学の観点から、「人間とは何か」、「人間はどう生きるべきか」、といった根本的な問題について考えるための基本的視点を培ってもら。全体として、西洋哲学の解説を軸とする。その際、「因果」すなわち「原因と結果」の関係性に焦点を合わせて、その認識論的・道徳哲学的射程を解き明かしていきたい。部分的に、仏教的な「因果応報」の思想にも触れていく。 ・当然視される前提について、あえて「問い」を向けるという姿勢を養ってほしい。自分は正しい、と思っても、一旦保留して、別の考え方はありえるか、という思考ができるようになってほしい。 	
	テキストの概要	因果性の問題に、安楽死の問題を加味した資料集を編纂した。これを基にして、おもには西洋哲学の視点を核に据えて、因果関係にまつわる諸問題を検討していく。また、安楽死の問題を題材にして、「死」の問題も検討していきたい。加えて、真宗学の視点から親鸞における因果応報の考え方についても触れる予定である。人間学の基盤をなす問題系を通覧してみたい。	
授業計画		<p>を選択した場合、スクーリングとレポートを合わせて4単位を修得します。スクーリングは本学で開催される90分の講義を15時限受講し、試験に合格することで2単位を修得し、レポートは2つのレポート（1つの課題に対して2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p>第1章 世界のすがた 第2章 ヒュームの因果批判 第3章 世界のきまりと世界にすまう 第4章 「死ぬ権利」の欺瞞 第5章</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の实務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		

	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		人間学特講（R）	
担当教員		一ノ瀬 正樹 次田 瞬	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学・倫理学の観点から、「人間とは何か」、「人間はどう生きるべきか」、といった根本的な問題について考えるための基本的視点を培ってもら。全体として、西洋哲学の解説を軸とする。その際、「因果」すなわち「原因と結果」の関係性に焦点を合わせて、その認識論的・道徳哲学的射程を解き明かしていきたい。部分的に、仏教的な「因果応報」の思想にも触れていく。 ・当然視される前提について、あえて「問い」を向けるという姿勢を養ってほしい。自分は正しい、と思っても、一旦保留して、別の考え方はありえるか、という思考ができるようになってほしい。 	
	テキストの概要	因果性の問題に、安楽死の問題を加味した資料集を編纂した。これを基にして、おもには西洋哲学の視点を核に据えて、因果関係にまつわる諸問題を検討していく。また、安楽死の問題を題材にして、「死」の問題も検討していきたい。加えて、真宗学の視点から親鸞における因果応報の考え方についても触れる予定である。人間学の基盤をなす問題系を通覧してみたい。	
授業計画		<p>4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。</p> <p>第1章 世界のすがた 第2章 ヒュームの因果批判 第3章 世界のきまりと世界にすまう 第4章 「死ぬ権利」の欺瞞 第5章</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		

	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		死生学特講（SR）
担当教員		香川 知晶
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	この「死生学特講」では、主に死をめぐる先端医療と倫理問題を問い直し、生命倫理という従来の問い直し方それ自体を問い直し、死生について学問的に熟考できるようになることを目指します。そして、それらの作業を通じて、自分自身の死生観を深めるとともに、人間と社会環境に関して幅広く理解できる能力を身につけることを目的とします。さらには、学問の基本にして要である「批判精神」を習得します。
	テキストの概要	香川知晶編著『資料集（死生学特講）』（武蔵野大学大学院通信教育部、2019年）
授業計画		<p>スクーリングとレポートとを合わせて4単位を修得します。スクーリングは、本学で開講される90分の講義を15時限受講し、試験に合格することで2単位を修得し、レポートは、2つのレポート（1つの課題に対して2本のレポート）を提出した上、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p>スクーリングの講義内容 ※講義内容は変更されることがあります。</p> <p>スクーリングでは、『資料集』および指定図書（香川知晶『命は誰のものか』（ディスカヴァー携書 [ディスカヴァー・トゥエンティワン]、2009年））に沿って、補足資料を配布しながら講義を行います。</p> <p>第01回：命をめぐる問題についての基本的な考え方 第02回：重度障害新生児の治療停止 第03回：出生前診断 第04回：新型出生前診断 第05回：優生思想 第06回：遺伝子診断の問題 第07回：生殖技術①AID 第08回：生殖技術②体外受精 第09回：生殖技術③代理出産 第10回：脳死臓器移植①臓器移植の展開 第11回：脳死臓器移植②脳死の観点からの問題の整理 第12回：治療停止・安楽死①カレン事件 第13回：治療停止・安楽死②世界の動向 第14回：まとめ 第15回：試験</p> <p>*日程や教室等については、WB Tのガイダンスや最新の掲示を確認してください。</p> <p>【第1章・第2章】 バイオエシックス・生命倫理の成立 【第3章】 新型出生前診断と「不幸な子どもの生まれない運動」 【第4章】 「自己決定」という概念の系譜 【第5章・第6章・第7章】 「いのち」の終わりをめぐる諸問題</p>

成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		死生学特講（R）	
担当教員		香川 知晶	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	この「死生学特講」では、主に死をめぐる先端医療と倫理問題を問い直し、生命倫理という従来の問い直し方それ自体を問い直し、死生について学問的に熟考できるようになることを目指します。そして、それらの作業を通じて、自分自身の死生観を深めるとともに、人間と社会環境に関して幅広く理解できる能力を身につけることを目的とします。さらには、学問の基本にして要である「批判精神」を習得します。	
	テキストの概要	香川知晶編著『資料集（死生学特講）』（武蔵野大学大学院通信教育部、2019年）	
授業計画		4本のレポート（2つの課題に対してそれぞれ2本のレポート）を提出した上、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 【第1章・第2章】 バイオエシックス・生命倫理の成立 【第3章】 新型出生前診断と「不幸な子どもの生まれない運動」 【第4章】 「自己決定」という概念の系譜 【第5章・第6章・第7章】 「いのち」の終わりをめぐる諸問題	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		老年学特講（SR）
担当教員		工藤 由貴子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	「老年学特論」では、誰もが経験する老いの過程—エイジング、そして、エイジングが重要な意味をもつ社会そのものを研究対象とし、今日的課題を捉え、各自の専門領域の知見と併せてそれらの課題と取り組む力を獲得します。
	テキストの概要	工藤由貴子編（2009）『資料集（老年学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部.
授業計画		<p>スクーリングとレポートを合わせて4単位を修得します。スクーリングは本学で集中開催される90分の講義を15時限受講し、試験に合格することで2単位を修得し、レポートは2つのレポート（1つの課題に対して2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p>第1章 老年学の研究を進めるに際して必要な基本概念 第2章 高齢社会を生きる 第3章 都市で老いる—Aging in Place— 第4章 高齢社会の新しい仕組み</p> <p>【スクーリング】 第1日目の課題： ① 老年学（ジェロントロジー）について ② エイジングとは 生涯発達という考え方 エイジングのとらえ方のいろいろ ③ 高齢化に対する基本的理解（1） 少子高齢化する人口構造 人口増加から人口減少へ 世界の動向 ④ 高齢化に対する基本的理解（2） 高齢者の実像 寿命と健康寿命 百歳老人</p> <p>第2日目の課題： ① 少子・高齢社会のライフコース 変わるライフコース 現代のライフコースの諸相 ② 長寿時代の家族 家族・世帯の形態とその変化 日本の家族の諸相 変貌する結婚と家族 ③ 高齢社会と世代</p>

	<p>少子・高齢社会の世代の特徴 若者と高齢者 社会保障制度と世代間の助け合い ④ グループによる演習 第3日目の課題： ① 高齢社会とジェンダー 性別役割分業のゆくえ 仕事と家庭 介護 ② 高齢社会と働き方 雇用環境の変化 新しい働き方 ③ 高齢社会のコミュニティ 高齢期の住まい 高齢社会を地域で支える 新しいコミュニティの創造 ④ グループによる演習</p>	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の 実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との 関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の 経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		老年学特講（R）	
担当教員		工藤 由貴子	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	「老年学特論」では、誰もが経験する老いの過程—エイジング、そして、エイジングが重要な意味をもつ社会そのものを研究対象とし、今日的課題を捉え、各自の専門領域の知見と併せてそれらの課題と取り組む力を獲得します。	
	テキストの概要	工藤由貴子編（2009）『資料集（老年学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部.	
授業計画		4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 第1章 老年学の研究を進めるに際して必要な基本概念 第2章 高齢社会を生きる 第3章 都市で老いる—Aging in Place— 第4章 高齢社会の新しい仕組み	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名	グリーフケア特講（SR）	
担当教員	中島 聡美 新明 一星	
授業方法	講義	
科目の概要	到達目標	「現代社会の中で適応困難を来たしている人たちの心理や行動のメカニズムを理解する」という目標に従い、喪失と悲嘆について次のように学習する。喪失による悲嘆反応について心理学的、臨床的、倫理的側面についての専門的知識を体得し、各人の関心を持った領域でのグリーフケアについて内外の文献研究や各人の実践を元に主体的に考察を深める。加えて、喪失体験と関連の深い心的外傷についても学習し、死別体験も含め「人が心に傷を受けること」についても検討を深める。
	テキストの概要	テキストは、「白井明美・小西聖子編（2009）『資料集（グリーフケア特講）』武蔵野大学大学院通信教育部」を用いる。通常の悲嘆と複雑性悲嘆（遷延性悲嘆障害）の概念、経過、治療について系統的に学ぶ。
授業計画	<p>スクーリングとレポートを合わせて4単位を修得します。スクーリングは本学で集中開催される90分の講義を15コマ受講し、試験に合格することで2単位を修得し、レポートは2つのレポート（1つの課題に対して2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p>スクーリングでは以下の項目について学ぶ。</p> <p>第1回：悲嘆の概念と愛着理論 第2回：通常の悲嘆反応の特徴 第3回：悲嘆のプロセスの諸理論 第4回：通常の悲嘆の疫学 第5回：通常ではない悲嘆の概念 第6回：複雑性悲嘆の概念と変遷 第7回：複雑性悲嘆の疫学 第8回：犯罪被害者遺族 第9回：自死遺族・災害遺族 第10回：子どもの悲嘆 第11回：通常の悲嘆のケア・介入・カウンセリング 第12回：複雑性悲嘆の治療 第13回：グリーフカウンセリング演習（心理教育、ケースフォーミュレーション） 第14回：あいまいな喪失 第15回：試験・まとめ</p> <p>レポートは指定された課題（グリーフケアの実践）についてテキストと関連文献を読みまとめる</p> <p>*詳細についてはスタディガイドを参照すること</p> <p><自宅学習></p> <p>第1章 死別研究の基本的理解 第2章 悲嘆研究の発展 第3章 暴力的な死別を経験した遺族とは</p>	

	第4章 治療とサポートの実際	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a: 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	(中島聡美) 経歴: 平成元年より浦和神経サナトリウム、北の丸クリニック、国立精神・神経医療研究センター病院等で精神科医療に従事。その中で遺族治療を行う。いばらき被害者支援センターや被害者支援都民センターで犯罪被害者遺族の支援・相談に携わる。 資格: 医師(精神科医)、日本精神・神経学会精神科専門医・指導医、臨床心理士、公認心理師。
	授業内容との関連性	悲嘆および病的な悲嘆(遷延性悲嘆障害)の病態および治療について臨床現場の視点をふまえた講義を行うことができる。
	b: 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c: 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		グリーフケア特講（R）	
担当教員		中島 聡美 新明 一星	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	「現代社会の中で適応困難を来たしている人たちの心理や行動のメカニズムを理解する」という目標に従い、喪失と悲嘆について次のように学習する。喪失による悲嘆反応について心理学的、臨床的、倫理的側面についての専門的知識を体得し、各人の関心を持った領域でのグリーフケアについて内外の文献研究や各人の実践を元に主体的に考察を深める。加えて、喪失体験と関連の深い心的外傷についても学習し、死別体験も含め「人が心に傷を受けること」についても検討を深める。	
	テキストの概要	テキストは、「白井明美・小西聖子編（2009）『資料集（グリーフケア特講）』武蔵野大学大学院通信教育部」を用いる。通常の悲嘆と複雑性悲嘆（遷延性悲嘆障害）の概念、経過、治療について系統的に学ぶ。	
授業計画		4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 テキストと関連文献を読み、以下の2つの課題についてまとめて提出する。 第1課題 悲嘆のプロセス（2回） 第2課題 グリーフケアの実践（2回） *詳細についてはスタディガイドを参照すること	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		○
	担当教員の实務経験（経歴・資格等）	（中島聡美）経歴：平成元年より浦和神経サナトリウム、北の丸クリニック、国立精神・神経医療研究センター病院等で精神科医療に従事。その中で遺族治療を行う。いばらき被害者支援センターや被害者支援都民センターで犯罪被害者遺族の支援・相談に携わる。 資格：医師（精神科医）、日本精神・神経学会精神科専門医・指導医、臨床心理士、公認心理師。	
	授業内容との関連性	悲嘆および病的な悲嘆（遷延性悲嘆障害）の病態および治療について臨床現場の視点をふまえた講義を行うことができる。	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目			

	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		カウンセリング特講（R）
担当教員		野口 普子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	<p>本科目では、エビデンス・ベースト・カウンセリングの考え方について学び、日本から発信された認知行動療法に関する知見について紹介します。</p> <p>また、東日本大震災などの自然災害や犯罪などのトラウマ体験によって引き起こされる外傷後ストレス障害（PTSD）を例に、心理学的基礎理論に基づくカウンセリング技法を紹介し、その基礎となる心理学モデルの検証に関する知見の紹介、臨床場面におけるカウンセリングの実際について学び、エビデンス・ベースト・カウンセリングに対する理解を深めることを目標とします。</p>
	テキストの概要	野口普子編（2014）『資料集（カウンセリング特講）』武蔵野大学大学院通信教育部。
授業計画		<p>4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。</p> <p>【資料1】 「エビデンス・ベースト・カウンセリングの理論的基礎」</p> <p>【資料2】 「うつ病の認知療法・認知行動療法の実際」</p> <p>【資料3】 「日本における心理士によるうつ病に対する認知行動療法の系統的レビュー」</p> <p>【資料4】 「うつ病の認知行動療法－わが国における実証的研究」</p> <p>【資料5】 「エビデンスに基づく非薬物療法 認知行動療法のエビデンス」</p> <p>【補足1】 「外傷後ストレス障害（Posttraumatic stress disorder; PTSD）の概観」</p> <p>【資料6】 「PTSDに対する認知行動療法 情動処理理論を中心に」</p> <p>【資料7】 「認知行動療法（PE療法）によるPTSD治療 ー日本におけるエビデンスと被害者ケア現場での実践応用ー」</p> <p>【資料8】 「交通事故に関する認知的評価と外傷後ストレス症状に関する縦断研究」</p> <p>【資料9】 「心理相談室におけるトラウマ臨床の困難と介入」</p>
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の实務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	

	c : 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		インド思想特講（SR）
担当教員		佐藤 裕之
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	古代のバラモン教、バラモン教と土着宗教が融合したヒンドゥー教、そして、ひとつの解釈学として成立した正統哲学（六派哲学）を中心に、インド思想を歴史に沿って解説する。さらに、インド思想における人生観・人間観・解脱観などを原典に基づいて紹介する。インドにおける知の在り方と思惟方法、インドの人生観・人間観・解脱観について学び、インド思想の現代的意義や有効性などについて考察し、人間の精神、思考の根源の上に立って人間関係の新しい構築や修復を図れる能力を身につけていることをめざす。
	テキストの概要	佐藤裕之編（2010）『資料集（インド思想特講）』武蔵野大学大学院通信教育部。
授業計画		<p>スクーリングとレポートを合わせて4単位を修得します。スクーリングは本学で集中開催される90分の講義を15時限受講し、試験に合格することで2単位を修得し、レポートは2つのレポート（1つの課題に対して2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p>第1章 インド思想概観 第2章 インド思想における人間観－人間はいかに生きるべきか－ 第3章 インド思想における解脱観 第4章 インド思想アンソロジー</p> <p>スクーリング</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：バラモン教とヒンドゥー教の神々（1） 第3回：バラモン教とヒンドゥー教の神々（2） 第4回：バラモン教とヒンドゥー教の聖典（1） 第5回：バラモン教とヒンドゥー教の聖典（2） 第6回：ウパニシャッドの思想 第7回：ビデオ「シャンカラの生涯（抄）」 第8回：インド思想における解脱観（1） 第9回：インド思想における解脱観（2） 第10回：インド思想における解脱観（3） 第11回：ビデオ「ガンジスの大祭：クンプ・メーラ」 第12回：『バガヴァット・ギーター』の思想（1） 第13回：『バガヴァット・ギーター』の思想（1） 第14回：ビデオ「生と死を見つめる聖地：ベナレス」 第15回：試験</p>
成績評価の方法		単位認定試験
		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目

実践的教育を行う 授業科目の種別	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b: 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c: 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		インド思想特講（S）
担当教員		佐藤 裕之
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	古代のバラモン教、バラモン教と土着宗教が融合したヒンドゥー教、そして、ひとつの解釈学として成立した正統哲学（六派哲学）を中心に、インド思想を歴史に沿って解説する。さらに、インド思想における人生観・人間観・解脱観などを原典に基づいて紹介する。インドにおける知の在り方と思惟方法、インドの人生観・人間観・解脱観について学び、インド思想の現代的意義や有効性などについて考察し、人間の精神、思考の根源の上に立って人間関係の新しい構築や修復を図れる能力を身につけていることをめざす。
	テキストの概要	佐藤裕之編（2010）『資料集（インド思想特講）』武蔵野大学大学院通信教育部。
授業計画		<p>スクーリングは本学で毎週開催される90分の講義を30時限受講し、試験に合格することで4単位を修得します。</p> <p>第1章 インド思想概観</p> <p>第2章 インド思想における人間観－人間はいかに生きるべきか－</p> <p>第3章 インド思想における解脱観</p> <p>第4章 インド思想アンソロジー</p> <p>スクーリング</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：バラモン教は何か？</p> <p>第3回：『リグ・ヴェーダ』の神々</p> <p>第4回：『リグ・ヴェーダ』に見られる世界創世神話</p> <p>第5回：『アタルヴァ・ヴェーダ』の呪術</p> <p>第6回：ブラーフマナの祭式</p> <p>第7回：ウパニシャッドとは何か？</p> <p>第8回：ブラフマンとアートマン（1）</p> <p>第9回：ブラフマンとアートマン（2）</p> <p>第10回：ヒンドゥー教とは何か？</p> <p>第11回：ヒンドゥー教の神々（1）</p> <p>第12回：ヒンドゥー教の神々（2）</p> <p>第13回：『バガヴァッド・ギーター』の思想（1）</p> <p>第14回：『バガヴァッド・ギーター』の思想（2）</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>後期</p> <p>第16回：インドの正統哲学（六派哲学）</p> <p>第17回：サーンキヤの哲学</p> <p>第18回：ヨーガの哲学</p> <p>第19回：ニヤーヤの哲学</p> <p>第20回：ヴァイシェーシカの哲学</p>

	第 21 回：ミーマーンサーの哲学 第 22 回：ヴェーダーンタの哲学 第 23 回：カースト制度 第 24 回：インドの人生観（1） 第 25 回：インドの人生観（2） 第 26 回：インドの人間観（1） 第 27 回：インドの人間観（2） 第 28 回：インドの解脱観（1） 第 29 回：インドの解脱観（2） 第 30 回：試験
成績評価の方法	単位認定試験
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)
	授業内容との関連性
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等
	授業内容
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目
	実習先・実習の目的
備考	

科目名		インド思想特講（R）	
担当教員		佐藤 裕之	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	古代のバラモン教、バラモン教と土着宗教が融合したヒンドゥー教、そして、ひとつの解釈学として成立した正統哲学（六派哲学）を中心に、インド思想を歴史に沿って解説する。さらに、インド思想における人生観・人間観・解脱観などを原典に基づいて紹介する。インドにおける知の在り方と思惟方法、インドの人生観・人間観・解脱観について学び、インド思想の現代的意義や有効性などについて考察し、人間の精神、思考の根源の上に立って人間関係の新しい構築や修復を図れる能力を身につけていることをめざす。	
	テキストの概要	佐藤裕之編（2010）『資料集（インド思想特講）』武蔵野大学大学院通信教育部。	
授業計画		4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 第1章 インド思想概観 第2章 インド思想における人間観－人間はいかに生きるべきか－ 第3章 インド思想における解脱観 第4章 インド思想アンソロジー	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		比較宗教特論
担当教員		寺田 喜朗
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	様々な宗教の成立・展開の過程を社会・文化的観点から辿り、それぞれの宗教の特性と共通性を明らかにすることを目的とする。1～15回は、アニミズムやシャーマニズム等の原始宗教、ユダヤ教、キリスト教、イスラームについて、16～30回目は、日本の神道と仏教、および民俗宗教や新宗教について、信念体系・儀礼実践・組織構造の観点から鳥瞰する。それぞれの宗教がそれぞれの社会・時代において果たしてきた役割・機能を考え、人々の価値観や社会生活に与える影響を考察する。
	テキストの概要	本科目はスクーリングだけの開講であるため、資料集は配布しません。
授業計画		<p>スクーリングは、本学で開催される集中講義（90分の講義を30時限）を受講し、試験に合格することで4単位を修得します。</p> <p>第1回 インTRODakション : 「宗教」という概念について考える</p> <p>第2回 宗教学の鍵概念① : アニミズム・マナ・トーテミズム</p> <p>第3回 宗教学の鍵概念② : シャーマニズム</p> <p>第4回 原始宗教と神話 : 神話の分布やモチーフについて概観する</p> <p>第5回 原始社会における宗教 : 農耕儀礼と宗教</p> <p>第6回 世界宗教の理解/ユダヤ・キリスト教① : ユダヤ教の成立と展開について概観する</p> <p>第7回 世界宗教の理解/ユダヤ・キリスト教② : ユダヤ教の成立と展開について概観する</p> <p>第8回 世界宗教の理解/キリスト教③ : キリスト教の成立と展開について概観する</p> <p>第9回 世界宗教の理解/キリスト教④ : キリスト教の成立と展開について概観する</p> <p>第10回 世界宗教の理解/キリスト教⑤ : キリスト教の成立と展開について概観する</p> <p>第11回 世界宗教の理解/イスラーム① : イスラームの成立と展開について概観する</p> <p>第12回 世界宗教の理解/イスラーム② : イスラームの成立と展開について概観する</p> <p>第13回 世界宗教の理解/イスラーム③ : イスラームの成立と展開について概観する</p> <p>第14回 世界宗教の理解/イスラーム④ : イスラームの成立と展開について概観する</p> <p>第15回 前半のまとめ</p> <p>第16回 日本宗教の理解/神祇信仰と神道① : 神道の成立と展開について概観する</p> <p>第17回 日本宗教の理解/神祇信仰と神道② : 神道の成立と展開について概観する</p> <p>第18回 日本宗教の理解/古代日本と仏教 : 仏教の伝来と鎮護国家</p> <p>第19回 日本宗教の理解/平安時代の仏教① : 最澄と天台宗について概観する</p> <p>第20回 日本宗教の理解/平安時代の仏教② : 空海と真言宗について概観する</p> <p>第21回 日本宗教の理解/鎌倉時代の仏教① : 法然と浄土宗について概観する</p> <p>第22回 日本宗教の理解/鎌倉時代の仏教② : 栄西・道元と臨済禅・曹洞禅について概観する</p> <p>第23回 日本宗教の理解/鎌倉時代の仏教③ : 親鸞と日蓮について概観する</p>

	第24回 日本宗教の理解／中世の仏教 : 権門体制・顕密体制と神仏習合について概観する 第25回 日本宗教の理解／近世の宗教① : 江戸幕府の宗教政策 第26回 日本宗教の理解／近世の宗教② : イエとムラの宗教 先祖祭祀と村落祭礼 第27回 日本宗教の理解／近代における宗教① : 神仏判然令と切支丹解禁 第28回 日本宗教の理解／近代における宗教② : 三条の教則と大教院制度 第29回 日本宗教の理解／近代における宗教③ : 新宗教の多様性 第30回 まとめ
成績評価の方法	単位認定試験
実践的教育を行う 授業科目の種別	a: 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)
	授業内容との関連性
	b: 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等
	授業内容
	c: 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目
	実習先・実習の目的
備考	

科目名		人間倫理特論	
担当教員		一ノ瀬 正樹 高橋 晃一	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	他者とともに社会を構築して生きる個人の諸問題を考えるうえで重要な、(1)死生の問題、(2)他者問題について、諸立場について一定の理解をうるとともに、問題に向かう基本的姿勢を培うことを目指す。具体的事例として、(3)仏教思想においてこの問題がいかに捉えられるかを、他の宗教や思想と比較しつつ理解する。	
	テキストの概要	なし	
授業計画		スクーリングは、本学で開催される集中講義（90分の講義を計30時限）を受講し、試験に合格することで4単位を修得します。 （前半）（一ノ瀬担当） 第1講(1-5 時限) 倫理学の基礎となる義務、功利、権利、所有などについて検討する。第2講(6-10 時限) 死刑存廃論、安楽死、死ぬ権利など、具体的問題を論じる。 第3講(11-15 時限) 引き続き、生殖医療の問題、戦争倫理、動物倫理などを取り上げる。 （後半）（高橋担当） 第4講(16-20 時限) 初期仏教からアビダルマまで思想を概観する。 第5講(21-25 時限) 大乘経典および中観、唯識思想に見られる人間観について考察する。 第6講(26-30 時限) 空や無我という観念と倫理思想の関係を考察する。	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の实務経験 (経歴・資格等)		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
実習先・実習の目的			
備考			

科目名		西洋思想特講（SR）
担当教員		富山 豊
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	「自ら哲学的に考える」と言っても、手掛かりなしにはどのように「考え」ればよいのなかなかかわからないものです。そのため、まずは過去の議論や学説を正しく理解してもらうことを目指します。その上で、それぞれの議論や学説にどのような長所や短所があるのか、自分で様々な具体例を考えながら検討できるようになることが目標です。
	テキストの概要	なし
授業計画		<p>スクーリングとレポートを合わせて4単位を修得します。スクーリングは本学で開催される原則90分の講義を15時限受講し、試験に合格することで2単位を修得し、レポートは2つのレポート（1つの課題に対して2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p><自宅学習></p> <p>第1章 意味 第2章 知識 第3章 倫理 第4章 心と自己</p> <p><スクーリング></p> <p>第1回： 言葉の意味とは何か：指示対象説・観念説・辞書説 第2回： 使用説と真理条件意味論 第3回： 検証主義的意味論 第4回： 自然主義的意味論 第5回： 知識とは何か：デカルトの方法的懐疑 第6回： 知識の古典的定義とゲティア反例 第7回： 因果説・信頼性主義・ドレッツキの知識論 第8回： ノージックの知識論 第9回： 倫理とは何か：功利主義 第10回： カント倫理学 第11回： 規則功利主義 第12回： ロールズ・徳倫理・フェミニズム 第13回： 心と自己：心身二元論と心身因果 第14回： ハイデガーの自己理論 第15回： まとめ</p>
成績評価の方法		単位認定試験
		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目

実践的教育を行う 授業科目の種別	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b: 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c: 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		西洋思想特講（R）	
担当教員		富山 豊	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	「自ら哲学的に考える」と言っても、手掛かりなしにはどのように「考え」ればよいのなかなかかわからないものです。そのため、まずは過去の議論や学説を正しく理解してもらうことを目指します。その上で、それぞれの議論や学説にどのような長所や短所があるのか、自分で様々な具体例を考えながら検討できるようになることが目標です。	
	テキストの概要	なし	
授業計画		4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 〈自宅学習〉 第1章 意味 第2章 知識 第3章 倫理 第4章 心と自己	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		仏教文化特講（SR）
担当教員		下野 玲子 種村 隆元
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	<p>この「仏教文化特講」では、仏教における文化的側面、その中でも仏教儀礼と仏教美術について掘り下げて学習していただくことになります。</p> <p>第1部の仏教儀礼では、インド密教における「プラティシュター」と呼ばれる尊像奉納儀礼を題材に取り上げ、その儀礼の概要、特色、さらに儀礼の社会的背景や教理との関係についての考察を通して、儀礼に対するアプローチの一例を紹介していきます。そしてこのプラティシュター儀礼の考察を通して、各自が儀礼を理論化し、それを他の分野に適用する応用力を養うことを目指します。</p> <p>第2部の仏教美術では、平安時代後期の貴族・大江親通が著した『七大寺日記』を読み、仏典その他の文献または図像を用いて、仏教美術をどのように解釈するかを学んでゆきます。日本の仏教美術史研究における基礎的な方法を経験することにより、学術の理論と応用力を身につけることを目指します。</p>
	テキストの概要	種村隆元・下野玲子編（2012）『資料集（仏教文化特講）』武蔵野大学大学院通信教育部
授業計画		<p>スクーリングとレポートを合わせて4単位を修得します。スクーリングは本学で開催される90分の講義を15時限受講し、試験に合格することで2単位を修得し、レポートは2つのレポート（1つの課題に対して2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p>スクーリング</p> <p>第1回：仏教儀礼1 インド密教について</p> <p>第2回：仏教儀礼2 インド密教におけるプラティシュター儀礼について(1)</p> <p>第3回：仏教儀礼3 インド密教におけるプラティシュター儀礼について(2)</p> <p>第4回：仏教儀礼4 『ヴァジラーヴァリー』プラティシュター章を読む</p> <p>第5回：仏教儀礼5 『ヴァジラーヴァリー』プラティシュター章を読む</p> <p>第6回：仏教儀礼6 『所作集註』プラティシュター章を読む</p> <p>第7回：仏教儀礼7 『所作集註』プラティシュター章を読む</p> <p>第8回：仏教美術1 『七大寺日記』と関連資料について</p> <p>第9回：仏教美術2 『七大寺日記』前文と東大寺条を読む</p> <p>第10回：仏教美術3 『七大寺日記』前文と東大寺条を読む</p> <p>第11回：仏教美術4 『七大寺日記』東大寺条を読む</p> <p>第12回：仏教美術5 『七大寺日記』東大寺条を読む</p> <p>第13回：仏教美術6 仏教美術の彩色と文様</p> <p>第14回：仏教美術7 『七大寺日記』東大寺条と美術の復元的考察</p> <p>第15回：試験</p> <p>レポート</p> <p>第1部 仏教儀礼</p>

	第1章 密教儀礼の資料 第2章 尊像奉納儀礼の概要 第3章 (特論1) 『所作集註』の尊像奉納儀礼に見られる「十の儀礼」とその背景について 第4章 (特論2) インド密教における尊蔵奉納儀礼の意味—9種類の灌頂に関するアバヤ—カラグプタの議論— 第2部 仏教美術 第1章 『七大寺日記』東大寺条の読解と東大寺美術の研究 第2章 東大寺美術の研究史	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a: 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b: 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c: 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		仏教文化特講（R）	
担当教員		下野 玲子 種村 隆元	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>この「仏教文化特講」では、仏教における文化的側面、その中でも仏教儀礼と仏教美術について掘り下げて学習して頂くことになります。</p> <p>第1部の仏教儀礼では、インド密教における「プラティシュター」と呼ばれる尊像奉納儀礼を題材に取り上げ、その儀礼の概要、特色、さらに儀礼の社会的背景や教理との関係についての考察を通して、儀礼に対するアプローチの一例を紹介していきます。そしてこのプラティシュター儀礼の考察を通して、各自が儀礼を理論化し、それを他の分野に適用する応用力を養うことを目指します。</p> <p>第2部の仏教美術では、平安時代後期の貴族・大江親通が著した『七大寺日記』を読み、仏典その他の文献または図像を用いて、仏教美術をどのように解釈するかを学んでゆきます。日本の仏教美術史研究における基礎的な方法を経験することにより、学術の理論と応用力を身につけることを目指します。</p>	
	テキストの概要	種村隆元・下野玲子編（2012）『資料集（仏教文化特講）』武蔵野大学大学院通信教育部	
授業計画		<p>4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。</p> <p>レポート</p> <p>第1部 仏教儀礼</p> <p>第1章 密教儀礼の資料</p> <p>第2章 尊像奉納儀礼の概要</p> <p>第3章（特論1）『所作集註』の尊像奉納儀礼に見られる「十の儀礼」とその背景について</p> <p>第4章（特論2）インド密教における尊像奉納儀礼の意味—9種類の灌頂に関するアバヤーカラグプタの議論—</p> <p>第2部 仏教美術</p> <p>第1章 『七大寺日記』東大寺条の読解と東大寺美術の研究</p> <p>第2章 東大寺美術の研究史</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
		担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
		授業内容との関連性	
		b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	

	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		発達心理学特講（R）	
担当教員		今福 理博	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	遺伝要因と環境要因の影響について、「両方とも大切」というような表層的な理解ではなく、学問的に正確に理解することが目標です。	
	テキストの概要	高橋晃編『資料集（発達心理学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部	
授業計画		4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 第1章 発達における生得的要因 第2章 子どもと映像メディア 第3章 文化の中の子ども 第4章 日米の子ども向け映画に関する文献	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		認知心理学特講（SR）
担当教員		栗山 直子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本講義では、身体と外界認知に関する基礎と新たな研究知見を紹介しながら、それに神経疾患が与える影響を考え、私たちの意識が複雑な認知過程を背景にしていることの理解を深めることを目標とします。
	テキストの概要	新美亮輔編『資料集（認知心理学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部
授業計画		<p>スクーリングとレポートを合わせて4単位を修得します。スクーリングは本学で集中開催される90分の講義を15時限受講し、試験に合格することで2単位を修得し、レポートは2つのレポート（1つの課題に対して2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p>【資料1】「認知科学とは何か」 【資料2】「学習心理学の歴史」 【資料3】「注意とは何か」 【資料4】「注意研究の進展」 【資料5】「短期記憶と作動記憶」 【資料6】「読みとワーキングメモリ容量 -日本語版リーディングスパンテストによる測定-」 【資料7】「物を認識するしくみ：視覚物体認識」 【資料8】「視覚物体認知における上位概念と表面特徴の影響」 【資料9】「新生児の初期視覚認知」 【資料10】「脳損傷にみる意識」 【資料11】子どもの類推の発達 -関係類似性に基づく推論- 【資料12】類似性と近接性 -人間の認知の特徴について-</p> <p>スクーリング 第1回 認知とは？ 第2回 学習と行動 第3回 認知の発達 第4回 記憶 第5回 視覚情報処理とイメージ 第6回 推論 第7回 問題解決 第8回 言語 第9回 意思決定 第10回 コミュニケーション 第11回 体性感覚・感覚間統合と身体表象 第12回 神経疾患による身体表象の変容 第13回 脳と神経システム 第14回 脳損傷による認知の変容</p>

	第 15 回 試験	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a : 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b : 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c : 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		認知心理学特講（R）	
担当教員		栗山 直子	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	本講義では、身体と外界認知に関する基礎と新たな研究知見を紹介しながら、それに神経疾患が与える影響を考え、私たちの意識が複雑な認知過程を背景にしていることの理解を深めることを目標とします。	
	テキストの概要	新美亮輔編『資料集（認知心理学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部	
授業計画		<p>4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。</p> <p>【資料1】 「認知科学とは何か」 【資料2】 「学習心理学の歴史」 【資料3】 「注意とは何か」 【資料4】 「注意研究の進展」 【資料5】 「短期記憶と作動記憶」 【資料6】 「読みとワーキングメモリ容量 -日本語版リーディングスパンテストによる測定-」 【資料7】 「物を認識するしくみ：視覚物体認識」 【資料8】 「視覚物体認知における上位概念と表面特徴の影響」 【資料9】 「新生児の初期視覚認知」 【資料10】 「脳損傷にみる意識」 【資料11】 子どもの類推の発達 -関係類似性に基づく推論- 【資料12】 類似性と近接性 -人間の認知の特徴について-</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		

科目名		人格心理学特講（SR）
担当教員		高橋 恵理子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	到達目標は、心理学の歴史におけるパーソナリティ研究の位置づけと発展の歴史を踏まえて、パーソナリティについて、その定義、理論、測定法、研究法、変容の方法等について、幅広い知識を習得することである。パーソナリティという複雑で多面的な概念について、心理学という学問の立場から、柔軟に、かつ科学的に理解し、日常においても自分や他者を理解する際に役立ててほしい。
	テキストの概要	なし
授業計画		<p>スクーリングとレポートを合わせて4単位を修得する。スクーリングは、本学で開催される原則90分の講義を15時限受講し、試験に合格することで2単位を修得する。レポートは、2つのレポート（1つの課題に対して2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得する。</p> <p><自宅学習></p> <p>資料集1 宮本浩紀 『信州豊南短期大学紀要』 2015年 p.45-647</p> <p>資料集2 小塩真司 『Japanese Psychological Review』 2016年 Vol. 59 No. 1</p> <p>資料集3 村山航 『The Annual Report of Educational Psychology』 2012年 Vol. 51 p.118-130</p> <p>資料集4 小塩真司・阿部晋吾・カトローニ・ピノ 『パーソナリティ研究』 2012年 Vol. 21 No. 1 p.40-52</p> <p>資料集5 国里愛彦・山口陽弘・鈴木伸一 『パーソナリティ研究』 2008年 Vol. 16 No. 3 p.324-334</p> <p>資料集6 安保恵理子・須賀千奈・根建金男 『パーソナリティ研究』 2012年 Vol. 20 No. 3 p.155-166</p> <p>資料集7 阿部ひと美・今井正司・根建金男 『パーソナリティ研究』 2013年 Vol. 21 No. 3 p.203-215</p> <p>資料集8 宮川充司 『椋山女学園大学教育学部紀要』 2012年 Vol. 5 p.107-114</p> <p><スクーリング></p> <p>第1日目（第1回～第5回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理学におけるパーソナリティの位置づけ ・パーソナリティに関する諸理論 ・パーソナリティのアセスメント法 ・グループワークについて <p>第2日目（第6回～第10回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーソナリティ研究における主要な統計解析 ・認知行動理論 ・パーソナル・コンストラクト理論 ・精神的不調とパーソナリティ障害

	第3日目（第11回～第15回） ・「Cloningerの気質・性格モデルとBig Fiveモデルとの関連性」のグループ発表とディスカッション ・「外見スキーマを測定する尺度の開発および外見スキーマとボディチェック認知の関連性の検討」のグループ発表とディスカッション ・「レパトリー・グリッド法を適用してとらえた社会不安の特徴」のグループ発表とディスカッション ・「青年期から成人期にかけての発達障害とパーソナリティ障害」のグループ発表とディスカッション ・単位認定試験	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の 実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との 関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の 経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の 目的	
備考		

科目名		人格心理学特講（R）
担当教員		高橋 恵理子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	到達目標は、心理学の歴史におけるパーソナリティ研究の位置づけと発展の歴史を踏まえて、パーソナリティについて、その定義、理論、測定法、研究法、変容の方法等について、幅広い知識を習得することである。パーソナリティという複雑で多面的な概念について、心理学という学問の立場から、柔軟に、かつ科学的に理解し、日常においても自分や他者を理解する際に役立ててほしい。
	テキストの概要	なし
授業計画		<p>4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得する。</p> <p><自宅学習></p> <p>資料集1 宮本浩紀 『信州豊南短期大学紀要』 2015年 p.45-647</p> <p>資料集2 小塩真司 『Japanese Psychological Review』 2016年 Vol. 59 No. 1</p> <p>資料集3 村山航 『The Annual Report of Educational Psychology』 2012年 Vol. 51 p.118-130</p> <p>資料集4 小塩真司・阿部晋吾・カトローニ・ピノ 『パーソナリティ研究』 2012年 Vol. 21 No. 1 p.40-52</p> <p>資料集5 国里愛彦・山口陽弘・鈴木伸一 『パーソナリティ研究』 2008年 Vol. 16 No. 3 p.324-334</p> <p>資料集6 安保恵理子・須賀千奈・根建金男 『パーソナリティ研究』 2012年 Vol. 20 No. 3 p.155-166</p> <p>資料集7 阿部ひと美・今井正司・根建金男 『パーソナリティ研究』 2013年 Vol. 21 No. 3 p.203-215</p> <p>資料集8 宮川充司 『椋山女学園大学教育学部紀要』 2012年 Vol. 5 p.107-114</p>
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	

	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		社会心理学特講（SR）
担当教員		小西 啓史
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	社会心理学の研究方法を学んだのち、現代社会心理学の主要トピックを取り上げて解説します。具体的には、社会的影響過程（同調行動、服従、説得的コミュニケーションなど）、自己提示などです。これらを学ぶことによって、社会心理学に関する基礎的知識を身につけることをめざします。レポート課題については、上記①のうち集団過程（文化を中心に）に関する文献を講読します。
	テキストの概要	小西啓史編『資料集（社会心理学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部 資料1 社会的反響 資料2 依頼と要請 資料3 個人主義と集団主義 資料4 空間とコミュニケーション
授業計画		スクーリングとレポートを合わせて4単位を修得します。スクーリングは本学で集中開催される90分の講義を15時限受講し、試験に合格することで2単位を修得し、レポートは2つのレポート（1つの課題に対して2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。 スクーリング 第1回 社会心理学研究法(1)：観察 第2回 社会心理学研究法(2)：実験 第3回 社会心理学研究法(3)：調査 第4回 社会的影響過程(1)：社会的規範の成立 第5回 社会的影響過程(2)：同調行動 第6回 社会的影響過程(3)：服従の心理 第7回 説得的コミュニケーション(1)：説得とは、情報の信憑性 第8回 説得的コミュニケーション(2)：一面的・両面的コミュニケーション、恐怖アピール、予防接種効果 第9回 説得的コミュニケーション(3)：段階的要請法 第10回 説得的コミュニケーション(4)：譲歩的要請法 第11回 説得的コミュニケーション(5)：承諾先取り法 第12回 説得的コミュニケーション(6)：ヒューリスティック 第13回 自己提示(1)：釈明 第14回 自己提示(2)：ゼルフ・ハンディキャッピング 第15回 試験 資料1 社会的影響 資料2 依頼と要請 資料3 個人主義と集団主義
成績評価の方法		単位認定試験

実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		社会心理学特講（R）	
担当教員		小西 啓史	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	社会的影響過程に関する文献、集団過程（文化を中心に）に関する文献を講読することによって、社会心理学に関する基礎知識を身につけ、日常場面で起こる社会的現象の理解と知識の応用が可能になることをめざします。	
	テキストの概要	小西啓史編『資料集（社会心理学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部 資料1 社会的反響 資料2 依頼と要請 資料3 個人主義と集団主義 資料4 空間とコミュニケーション	
授業計画		4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 1. 社会的影響過程について資料1、資料2をもとに考察する。 2. 文化が人間に及ぼす影響について資料3、資料4をもとに考察する	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の实務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		環境心理学特講（R）	
担当教員		立川 公子	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>主要な学術ジャーナルや研究図書等から精選した人間－環境系を主題とした研究論文に対する批判的なレビューを端緒とした考察を通して、環境心理学および関連する学問ディスプリンによるアプローチを理解するとともに、環境心理学の可能性と限界を把握します。さらに、ゲーテッド・コミュニティ、シェアハウス、持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）、ぼっち席、ノマドワーカー、ヘイトスピーチ、フィジカル空間（サイバー空間とリアル空間が融合した新しい空間）などの同時代的なトピックスに関しても、環境心理学の知見からトランスフォーマティブな研究が適用できるだけの知見の獲得をめざします。</p>	
	テキストの概要	村松陸雄編『資料集（環境心理学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部。	
授業計画		<p>4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。</p> <p>第1章 住居の環境心理学 第2章 都市の環境心理学 第3章 自然の環境心理学 第4章 限りある資源の管理</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の实務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		メンタルヘルス特論	
担当教員		野口 普子	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標		
	テキストの概要		
授業計画			
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		ケースワーク特論（R）（人間__人間）	
担当教員		矢野 明宏	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>本講義では、社会福祉援助技術の一つであるケースワークについて、その歴史、基本概念とその技法を習得することによって、社会福祉援助活動についての理解を深めていく。そのことを通して、現代社会の中で適応困難（生活のしづらさ）をきたしている人たちの心理や行動（社会環境との関係も含む）を理解する能力を身につけることを目標とする。具体的には、ソーシャルワークの体系、ケースワークの歴史、構造、定義、視点・モデルの理解、ソーシャルワークの価値・倫理、対象者の援助・支援に必要なスキル、アセスメント・プランニングなどの展開過程、面接技法を理解し、それらをふまえて社会福祉援助活動についての理解を深めることになる。</p>	
	テキストの概要	堀千鶴子編『資料集（ケースワーク特論）』武蔵野大学大学院通信教育部	
授業計画		<p>本科目では、4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 資料1～資料6</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		ターミナルケア特論（S）	
担当教員		小西 達也	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標		
	テキストの概要		
授業計画			
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		ターミナルケア特論（SR）	
担当教員		小西 達也	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標		
	テキストの概要		
授業計画			
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名	特定課題研究演習（人間__人間）	
担当教員	一ノ瀬 正樹 小西 啓史 佐藤 裕之 西本 照真 野口 普子 日野 慧運 丸井 浩	
授業方法	講義	
科目の概要	到達目標	<p>「特定課題研究演習」は、指定された課題に基づいて特定課題研究論文を執筆する科目です。</p> <p>必修科目なので、この科目の単位を取得しなければ、大学院を修了することはできません。</p> <p>一般的に大学院では修士論文の執筆が必修になっていますが、本学の人間社会研究科では、修士論文に相当するものが特定課題研究論文になります。</p> <p>「人間社会研究科」という研究科名が示しているように、研究対象は人間です。人間を研究する場合、さまざまな学問分野（哲学、宗教学、心理学、生物学、社会学、経済学など）からのアプローチが可能です。しかし、近代以降、それぞれの学問分野からの個別のアプローチでは人間を理解することはできないという反省から、学問分野を横断し、総合的に人間にアプローチする「人間学」の必要性が求められます。最近では「総合人間学」という言い方もされています。</p> <p>人間社会研究科 人間学専攻も、このようなアプローチによって人間を研究することを目的にしています。しかし、人間学が総合的に人間にアプローチするものであっても、「人間学」あるいは「人間論」というタイトルがついた書籍や論文を読めば分かるように、そのテーマは多岐にわたり、方向性や問題意識も異なります。</p> <p>従って、本学の人間社会研究科では、方向性や問題意識を明確にするために、修士論文ではなく、指定した課題に基づく特定課題研究論文にしました。</p> <p>研究には独創性が求められることがあります。しかし、研究において最も重要なのは 独創的な 結論そのものではなく、</p> <p>どのような方法と手続きによってその結論を導き出したのかという研究方法になります。</p> <p>どんなに独創的な結論であっても、いい加減な研究方法によって導かれたものであるなら、それは研究による結果ではなく、ただの思いつきにしか過ぎません。</p> <p>以上の点から、特定課題研究論文では、あえて独創的な結論は求めずに、確実な研究方法を求めます。</p> <p>「特定課題研究演習」という科目の目的は、研究とはどのようなものであり、どのような方法で進めるのかという、研究能力を身に付けることです。</p> <p>研究能力を身に付けることができれば、大学院修了後、関心のあるテーマを各自で研究することができます。</p>
	テキストの概要	なし
授業計画	<p>授業計画に記載の内容を行い、合格することで4単位を修得します。</p> <p>(2019年)</p> <p>12月15日まで「研究計画書」提出</p>	

	<p>12 月下旬 指導教員通知または再提出通知 (2020 年)</p> <p>1 月 19 日 12:00 正午まで「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出 (* 指導教員を通知された者のみ)</p> <p style="text-align: center;">「研究計画書」再提出 (* 該当者のみ)</p> <p>1 月下旬 指導教員通知 (* 「研究計画書」再提出者のみ)</p> <p>2 月 5 日 12:00 正午まで「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出 (* 「研究計画書」再提出者のみ)</p> <p>2 月 11 日まで 指導教員決定通知 (「指導教員変更願」の結果通知を含む)</p> <p>2 月中旬 履修登録</p> <p>3 月～5 月 第 1 回面接指導 (* 第 2 回目以降の面接指導は、指導教員と履修生が相談して回数と時期を決定します。)</p> <p>8 月 10 日まで 「研究経過確認申請・中間発表」提出</p> <p>9 月下旬か 10 月上旬 中間発表 (希望者のみ)</p> <p>12 月 10 日まで 「清書論文提出許可願」提出 (2021 年)</p> <p>1 月 10 日まで 「清書論文」提出 ・ 「清書論文提出届」提出</p> <p>1 月下旬か 2 月上旬 公聴会・口述試問</p> <p>2 月上旬 成績通知 (半年繰り上げ希望者対象)</p> <p>8 月 10 日まで 「清書論文」提出「清書論文提出届」提出</p> <p>8 月下旬か 9 月上旬 公聴会・口述試問 (* 半年繰り上げ希望者のみ)</p> <p>9 月中旬 成績通知 (* 半年繰り上げ希望者のみ)</p>	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a : 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b : 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c : 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		仏教と共生原理（S）
担当教員		新作 慶明
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	<p>本科目では、仏教における「共生」の原理を学習し、学習者自身の共生観を構築することを目的とします。</p> <p>今日、様々な分野で「共生」が主張されていますが、裏を返せば、いまこそ共生が考えられなければならない、ということになります。そこで、本科目では、仏教文献の中に見られる「共生」について、個人の生き方・社会との関わり方という視点をもって、学んでいきます。最終的な到達目標は、仏教思想の現代的意義と社会福祉思想との関連を考え、他職種・他機関との協同・連携力を身につけることにあります。</p>
	テキストの概要	竹村牧男『ブッディスト・エコロジー —共生・環境・いのちの思想』（ノンブル社、2016年）
授業計画		<p>スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。</p> <p>第01回 インTRODakション</p> <p>第02回 共生とは何か</p> <p>第03回 仏教と共生①「個と世界（社会）」</p> <p>第04回 仏教と共生①</p> <p>第05回 仏教と共生②「人と自然・環境」</p> <p>第06回 仏教と共生②</p> <p>第07回 仏教と共生③「いのち」</p> <p>第08回 仏教と共生③</p> <p>第09回 仏教と共生④「死生観」</p> <p>第10回 仏教と共生④</p> <p>第11回 仏教と共生⑤「社会福祉」</p> <p>第12回 仏教と共生⑤</p> <p>第13回 仏教と共生⑥「幸福・苦」</p> <p>第14回 仏教と共生⑥</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 試験</p> <p>I 共生の思想「共生思想の歩みと課題」</p> <p>I 共生の思想「自然と他者と一禅の立場から」</p> <p>I 共生の思想「空海の人間観をめぐって一己心の中の曼荼羅という思想」</p> <p>II 自己と環境「自然との共生と日本の思想」</p> <p>II 自己と環境「己事究明としてのエコ・フィロソフィ」</p> <p>II 自己と環境「仏教に基づく生活指針—新大乘戒の提唱」</p> <p>III いのちの深みへ「人生の苦を見つめて」</p> <p>III いのちの深みへ「仏教の死生観—輪廻とは何か、そこからどう脱却するのか」</p>

	Ⅲ いのちの深みへ「仏教と神秘主義一禅と密教を中心に」	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		仏教と共生原理（R）	
担当教員		新作 慶明	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>本科目では、仏教における「共生」の原理を学習し、学習者自身の共生観を構築することを目的とします。</p> <p>今日、様々な分野で「共生」が主張されていますが、裏を返せば、いまこそ共生が考えられなければならない、ということになります。そこで、本科目では、仏教文献の中に見られる「共生」について、個人の生き方・社会との関わり方という視点をもって、学んでいきます。最終的な到達目標は、仏教思想の現代的意義と社会福祉思想との関連を考え、他職種・他機関との協同・連携力を身につけることにあります。</p>	
	テキストの概要	竹村牧男『ブッディスト・エコロジー ―共生・環境・いのちの思想』（ノンブル社、2016年）	
授業計画		<p>2つのレポート（1つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p>I 共生の思想「共生思想の歩みと課題」</p> <p>I 共生の思想「自然と他者と一禅の立場から」</p> <p>I 共生の思想「空海の人間観をめぐって一己心の中の曼荼羅という思想」</p> <p>II 自己と環境「自然との共生と日本の思想」</p> <p>II 自己と環境「己事究明としてのエコ・フィロソフィ」</p> <p>II 自己と環境「仏教に基づく生活指針―新大乘戒の提唱」</p> <p>III いのちの深みへ「人生の苦を見つめて」</p> <p>III いのちの深みへ「仏教の死生観―輪廻とは何か、そこからどう脱却するのか」</p> <p>III いのちの深みへ「仏教と神秘主義―禅と密教を中心に」</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
		担当教員の实務経験（経歴・資格等）	
		授業内容との関連性	
		b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
		学外講師の経歴・資格等	
		授業内容	
		c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	

	実習先・実習の目的	
備考		

科目名	社会福祉理論研究（S）
担当教員	熊田 博喜
授業方法	講義
科目の概要	<p>本科目の到達目標は、社会福祉という制度・援助実践の総体をまずは、特定の学説に従って理解すると共に、受講者自らがそれを通じて「社会福祉とは何か」について考える契機となることです。</p> <p>本講では古川孝順の学説に従って、社会福祉の目的(歴史)・対象・主体・方法について理解を深めます。具体的には、目的歴史：社会福祉は何のために存立するのか、対象：社会福祉を利用するのは誰なのか・そのような利用者はどのような状況におかれているのか、主体：誰が社会福祉を担うのか、方法：どのようにして対象に接近し援助を行うのか、という問いを巡ってその基本的な考え方を学びます。併せてそしてそれを基盤にしながら受講者自身の諸実践を社会福祉理論という文脈に位置づけることによって、ディプロマポリシーに記載している 1) 困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力、2) リスクマネジメント等を含む組織運営管理能力、組織デザイン・改革力、福祉資源開発力、3) 社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力の基盤形成の一助とすることを期待しています。</p>
	<p>テキストの概要</p> <p>古川孝順(2008)『福祉ってなんだ』岩波書店</p>
授業計画	<p>スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。</p> <p>第1章 社会福祉をときほぐす 第2章 社会福祉のなりたち 第3章 社会福祉が必要とされるわけ 第4章 社会福祉のしくみ 第5章 社会福祉のサービスプログラム 第6章 社会福祉を利用する 第7章 社会福祉を支える</p> <p>スクーリング</p> <p>第1回 オリエンテーション（本講の運営方法と研究の基本的視点） 第2回 社会福祉の「理論」を考えることの重要性(どのような社会現象を社会福祉と捉えるのか) 第3回 社会福祉の「定義(概念)」を巡って 第4回 社会福祉の「定義(概念)」を巡って【承前】 第5回 社会福祉の「歴史」を巡って 第6回 社会福祉の「歴史」を巡って【承前】 第7回 社会福祉の「対象」と「ニーズ」を巡って 第8回 社会福祉の「対象」と「ニーズ」を巡って【承前】</p>

	第9回 社会福祉の「運営」と「制度」を巡って 第10回 社会福祉の「運営」と「制度」を巡って【承前】 第11回 社会福祉の「支援」と「サービス」を巡って 第12回 社会福祉の「支援」と「サービス」を巡って【承前】 第13回 社会福祉の「専門職」と「研究課題」を巡って 第14回 社会福祉の「専門職」と「研究課題」を巡って【承前】 第15回 受講者の研究テーマとその理論的背景に関する報告 第16回 受講者の研究テーマとその理論的背景に関する報告【承前】
成績評価の方法	単位認定試験
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)
	授業内容との関連性
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等
	授業内容
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目
	実習先・実習の目的
備考	

科目名		社会福祉理論研究（R）	
担当教員		熊田 博喜	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>本科目の到達目標は、社会福祉という制度・援助実践の総体をまずは、特定の学説に従って理解すると共に、受講者自らがそれを通じて「社会福祉とは何か」について考える契機となることです。</p> <p>本講では古川孝順の学説に従って、社会福祉の目的(歴史)・対象・主体・方法について理解を深めます。具体的には、目的歴史：社会福祉は何のために存立するのか、対象：社会福祉を利用するのは誰なのか・そのような利用者はどのような状況におかれているのか、主体：誰が社会福祉を担うのか、方法：どのようにして対象に接近し援助を行うのか、という問いを巡ってその基本的な考え方を学びます。併せてそしてそれを基盤にしながら受講者自身の諸実践を社会福祉理論という文脈に位置づけることによって、ディプロマポリシーに記載している 1) 困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力、2) リスクマネジメント等を含む組織運営管理能力、組織デザイン・改革力、福祉資源開発力、3) 社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力の基盤形成の一助とすることを期待しています。</p>	
	テキストの概要	古川孝順(2008)『福祉ってなんだ』岩波書店	
授業計画		<p>2つのレポート（1つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p>第1章 社会福祉をときほぐす 第2章 社会福祉のなりたち 第3章 社会福祉が必要とされるわけ 第4章 社会福祉のしくみ 第5章 社会福祉のサービスプログラム 第6章 社会福祉を利用する 第7章 社会福祉を支える</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
		担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
		授業内容との関連性	
		b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
		学外講師の経歴・資格等	

	授業内容	
	c : 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		ソーシャルワーク理論研究（S）	
担当教員		小高 真美	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標		
	テキストの概要		
授業計画			
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		ソーシャルワーク理論研究（R）	
担当教員		小高 真美	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標		
	テキストの概要		
授業計画			
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		社会福祉制度政策研究（S）	
担当教員		山本 雅章	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>社会福祉政策の幅広い問題を対象として、履修者が選んだ課題（複数）に対して履修者が小論文を書き、担当講師がコメントを述べる。履修者はコメントに対応して小論文を改定する。この繰り返しを経て小論文を完成させる。</p> <p>その過程で履修者は選んだテーマについて、①現状や課題を的確に把握し、②自分の考えを発展させ、それをサポートするエビデンスを集め、③論理の飛躍なく、かつ、分かりやすい文章と付加価値の高い図表で小論文を作成することが求められる。そのスキルは社会福祉学に関する専門的な内容の論文執筆に欠かせないものである。</p>	
	テキストの概要	なし	
授業計画		<p>スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。</p> <p><自宅学習></p> <p>第3章 介護サービス 第4章 福祉サービス 第5章 保健医療福祉行財政</p> <p><スクーリング></p> <p>通学制の「社会福祉制度政策研究」では講義を行わず、論文指導の形態をとっている。通信制でもこれに準ずる。</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
実習先・実習の目的			
備考			

科目名		社会福祉制度政策研究（R）	
担当教員		山本 雅章	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>社会福祉政策の幅広い問題を対象として、履修者が選んだ課題（複数）に対して履修者が小論文を書き、担当講師がコメントを述べる。履修者はコメントに対応して小論文を改定する。この繰り返しを経て小論文を完成させる。</p> <p>その過程で履修者は選んだテーマについて、①現状や課題を的確に把握し、②自分の考えを発展させ、それをサポートするエビデンスを集め、③論理の飛躍なく、かつ、分かりやすい文章と付加価値の高い図表で小論文を作成することが求められる。そのスキルは社会福祉学に関する専門的な内容の論文執筆に欠かせないものである。</p>	
	テキストの概要	なし	
授業計画		<p>2つのレポート（1つの課題に対して2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p><自宅学習></p> <p>第3章 介護サービス</p> <p>第4章 福祉サービス</p> <p>第5章 保健医療福祉行財政</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		ケースワーク特論（S）（実践福祉学専攻）
担当教員		大崎 広行
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	<p>ソーシャルワークは、人と環境との関わり合いを常に複眼的に捉え、人々の生活や人生に関与する、極めて実践的な領域です。本講義では、ソーシャルワーク実践の中核となる個別支援（ケースワーク）について、歴史的な史実も踏まえて、ジェネラリスト・ソーシャルワークやミクロからマクロまでのソーシャルワーク理論に依拠しながら、事例も交えて体系的かつ実践的に学ぶことを目的とします。</p> <p>本科目の到達目標は、上記目的を達成することを通して、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携の知識を理解すると共に、社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等を身につけることにあります。</p>
	テキストの概要	久保紘章・副田あけみ編（2005）『ソーシャルワークの実践モデル—心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店
授業計画		<p>スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。</p> <p>第1章 心理社会的アプローチ 第2章 機能的アプローチ 第3章 問題解決アプローチ 第4章 家族療法とソーシャルワーク（家族療法アプローチ） 第5章 行動療法とソーシャルワーク（行動療法アプローチ） 第6章 課題中心アプローチ 第7章 生態学的（エコロジカル）アプローチ 第8章 ジェネラリスト・アプローチ 第11章 エンパワーメント・アプローチ</p> <p>スクーリング</p> <p>第1章 ソーシャルワークの理論と実践の基本的枠組み 第1回 オリエンテーション 第2回 ソーシャルワークとは 第3回 ソーシャルワーク理論と実践—過去・現在・未来 第4回 ソーシャルワークの理論と実践の関係再構築</p> <p>第2章 ソーシャルワークの視座 第5回 ソーシャルワークの価値と倫理 第6回 ソーシャルワークにおける人権と社会正義、権威</p> <p>第3章 ソーシャル・ケースワークの実践モデル 第7回 ソーシャル・ケースワークの実践モデル1 第8回 ソーシャル・ケースワークの実践モデル2 第9回 ソーシャル・ケースワークの実践モデル3</p>

	第10回 ソーシャル・ケースワークの実践モデル4 第4章 統合実践モデルと新しい実践モデル 第11回 統合実践モデルと新しい実践モデル1 第12回 統合実践モデルと新しい実践モデル2 第13回 統合実践モデルと新しい実践モデル3 第14回 統合実践モデルと新しい実践モデル4 第5章 支援の実際と実践現場における今日的課題 第15回 支援の実際と実践現場における今日的課題1 第16回 支援の実際と実践現場における今日的課題2	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の 実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との 関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の 経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の 目的	
備考		

科目名		ケースワーク特論（R）（実践福祉学専攻）	
担当教員		大崎 広行	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>ソーシャルワークは、人と環境との関わり合いを常に複眼的に捉え、人々の生活や人生に関与する、極めて実践的な領域です。本講義では、ソーシャルワーク実践の中核となる個別支援（ケースワーク）について、歴史的な史実も踏まえて、ジェネラリスト・ソーシャルワークやミクロからマクロまでのソーシャルワーク理論に依拠しながら、事例も交えて体系的かつ実践的に学ぶことを目的とします。</p> <p>本科目の到達目標は、上記目的を達成することを通して、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携の知識を理解すると共に、社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等を身につけることにあります。</p>	
	テキストの概要	久保紘章・副田あけみ編（2005）『ソーシャルワークの実践モデル—心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店	
授業計画		<p>2つのレポート（1つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p>第1章 心理社会的アプローチ 第2章 機能的アプローチ 第3章 問題解決アプローチ 第4章 家族療法とソーシャルワーク（家族療法アプローチ） 第5章 行動療法とソーシャルワーク（行動療法アプローチ） 第6章 課題中心アプローチ 第7章 生態学的（エコロジカル）アプローチ 第8章 ジェネラリスト・アプローチ 第11章 エンパワーメント・アプローチ</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		

	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		グループワーク特論（S）	
担当教員		小俣 智子	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>グループワークを机上の学問とせず、実践的な理論とともにグループワークスキルを獲得し、アドバンスソーシャルワーカーを目指すことです。</p> <p>具体的には、グループワーク理論の成り立ちや主要概念、方法論等を学び、それを踏まえて自身の実践を省察・評価し、自らの実践課題を説明できるようになることを目標とします。</p>	
	テキストの概要	大利一雄（2003）「グループワーク 理論とその導き方」勁草書房	
授業計画		<p>スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。</p> <p>スクーリングでは、テキストの他に関係資料を配布して、講義を行います。第1週 グループワークの歴史と概要</p> <p>第2週 グループワークのアプローチ・モデル理論</p> <p>第3週 グループワークによる支援の展開（準備期）</p> <p>第4週 グループワークによる支援の展開（開始期・オリエンテーション）</p> <p>第5週 グループワークによる支援の展開（作業期）</p> <p>第6週 グループワークによる支援の展開（終結期）</p> <p>第7週 グループワーク支援（セルフヘルプ・グループ）</p> <p>第8週 グループワークの実践演習 振り返りとまとめ</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の实務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		

科目名		グループワーク特論（R）	
担当教員		小俣 智子	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>グループワークを机上の学問とせず、実践的な理論とともにグループワークスキルを獲得し、アドバンスソーシャルワーカーを目指すことです。</p> <p>具体的には、グループワーク理論の成り立ちや主要概念、方法論等を学び、それを踏まえて自身の実践を省察・評価し、自らの実践課題を説明できるようになることを目標とします。</p>	
	テキストの概要	大利一雄（2003）「グループワーク 理論とその導き方」勁草書房	
授業計画		<p>2つのレポート（1つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p>第1週 グループワークの歴史と概要 第2週 グループワークのアプローチ・モデル理論 第3週 グループワークによる支援の展開（準備期）第4週 グループワークによる支援の展開（開始期・オリエンテーション）第5週 グループワークによる支援の展開（作業期）第6週 グループワークによる支援の展開（終結期）第7週 グループワークによる支援（セルフヘルプ・グループ）第8週 グループワークの実践演習 振り返りとまとめ</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の 実務経験 (経歴・資格等)		
	授業内容との 関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の 経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の 目的		
備考			

科目名		コミュニティワーク特論（S）	
担当教員		小田川 華子	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標		
	テキストの概要		
授業計画			
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		コミュニティワーク特論（R）	
担当教員		小田川 華子	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標		
	テキストの概要		
授業計画			
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		スーパービジョン特論（S）
担当教員		稗田 里香
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目の到達目標は、専門職としてのソーシャルワーカーを養成するためのトレーニング・プロセスであるスーパービジョンの理論と方法を段階的に実践的に学び、スーパーバイザーとして実践の場でスーパービジョンが展開できる技術を身につけ、自職場におけるソーシャルワーカーの新人研修・実習プログラムの立案方法や指導の留意点を学習し、組織において後進指導の役割を担えるようにすることです。
	テキストの概要	資料 1・2・3 ⇒ 資料は「科目資料参照へ」から確認が可能です。 ロバート・E・リー、クレグ・A・エベレット(福山和女・石井千加子監訳 (2011)) 『家族療法のスーパーヴィジョン』 金剛出版
授業計画		スクーリングを選択した場合、スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。 <スクーリングの講義内容（講義内容は変更されることがあります。）> 1. オリエンテーション スーパービジョン体験について 2. スーパービジョンとは スーパービジョンの歴史と発展 スーパービジョンの必要性について 3. スーパービジョンの機能について 各機能の実際と関係について 4. 組織としてのスーパービジョン体制づくりについて 5. スーパービジョン過程における基本要素 自らのスーパーバイザー体験をもとにスーパービジョンの基本原則 6. スーパービジョンのトレーニング・システムの多代的構造とダイナミクスについて 7. スーパービジョンの発達段階的側面について 8. スーパービジョンのための主要な理論的リソース 9. スーパービジョンの様式と形態 10. スーパービジョンにおける効果的な実践について 11. スーパービジョン・プロセスを妨げる問題について 12. スーパーバイザーの責任と管理的側面 13. スーパービジョンの実際 1 14. スーパービジョンの実際 2 15. スーパービジョンの実際 3 16. まとめと振り返り

成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		スーパービジョン特論（R）	
担当教員		稗田 里香	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>本科目の到達目標は、専門職としてのソーシャルワーカーを養成するためのトレーニング・プロセスであるスーパービジョンの理論と方法を段階的に実践的に学び、スーパーバイザーとして実践の場でスーパービジョンが展開できる技術を身につけ、自職場におけるソーシャルワーカーの新人研修・実習プログラムの立案方法や指導の留意点を学習し、組織において後進指導の役割を担えるようにすることです。</p>	
	テキストの概要	<p>資料 1・2・3 ⇒ 資料は「科目資料参照へ」から確認が可能です。 ロバート・E・リー、クレッグ・A・エベレット(福山和女・石井千加子監訳 (2011)) 『家族療法のスーパーヴィジョン』 金剛出版</p>	
授業計画		<p>レポートを選択した場合、2つのレポート（1つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p>第1章 スーパーヴィジョン過程における基本要素第3章スタートを切る 統合的スーパーヴィジョンの基本的指針第4章 トレーニング・システムの多世代構造とダイナミクス第5章 スーパービジョンの発達段階的側面第6章 スーパーヴィジョンのための主要な理論的リソース第7・8章 スーパーヴィジョンの様式と形態第10章 スーパーヴィジョンにおける効果的な実践について第11章 スーパーヴィジョン・プロセスを妨げる問題の取り扱い方第12章 スーパーヴァイザーの責任と管理的側面のツール</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の实務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
実習先・実習の目的			

科目名		ケースマネジメント特論（S）
担当教員		渡邊 浩文
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	<p>本科目では、ケースマネジメントの理解を通して、様々な課題を抱えながら地域で生活する人々への支援のあり方について検討します。具体的には、ケースマネジメントが必要とされる背景について学び、どのようなニーズに対してケースマネジメントを活用することが必要かについての理解を深めます。そのうえで、ケースマネジメントの機能として、アセスメント、サービス支援計画、モニタリング等の詳細について学びます。以上を通して、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等を身に着けることを目指します。</p>
	テキストの概要	<p>デイビッド P. マクスリー（著），野中 猛（翻訳），加瀬 裕子（翻訳）（1994）『ケースマネジメント入門』中央法規出版</p>
授業計画		<p>スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。</p> <p>第1章 対人サービスのケースマネジメント 第2章 サービスと支援のニーズに関するアセスメント 第3章 サービス支援計画の展開 第4章 ケースマネジメントの直接サービス機能 第5章 ケースマネジメントの間接サービス機能 第6章 ケースマネジメントのモニタリング機能 第7章 ケースマネジメントの評価機能 第8章 効果的なケースマネジメント：実践の指針</p> <p>スクーリング</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 ケースマネジメントが必要とされる背景 第3回 ケースマネジメントのプロセス 第4回 ケースマネジメントにおけるアセスメント① 第5回 ケースマネジメントにおけるアセスメント② 第6回 ケースマネジメントにおけるニーズ把握 第7回 ケースマネジメントとソーシャルワーク 第8回 介護保険制度とケースマネジメント① 第9回 介護保険制度とケースマネジメント② 第10回 認知症高齢者及びその家族へのケースマネジメント① 第11回 認知症高齢者及びその家族へのケースマネジメント② 第12回 認知症高齢者とその家族へのケースマネジメント③ 第13回 ケースマネジメントの支援の実際① 第14回 ケースマネジメントの支援の実際② 第15回 ケースマネジメントの支援の実際③ 第16回 まとめ</p>

成績評価の方法	単位認定試験
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)
	授業内容との関連性
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等
	授業内容
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目
	実習先・実習の目的
備考	

科目名		ケースマネジメント特論（R）
担当教員		渡邊 浩文
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	<p>本科目では、ケースマネジメントの理解を通して、様々な課題を抱えながら地域で生活する人々への支援のあり方について検討します。具体的には、ケースマネジメントが必要とされる背景について学び、どのようなニーズに対してケースマネジメントを活用することが必要かについての理解を深めます。そのうえで、ケースマネジメントの機能として、アセスメント、サービス支援計画、モニタリング等の詳細について学びます。以上を通して、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等を身に着けることを目指します。</p>
	テキストの概要	<p>デイビッド P. マクスリー（著）、野中 猛（翻訳）、加瀬 裕子（翻訳）（1994）『ケースマネジメント入門』中央法規出版</p>
授業計画		<p>2つのレポート（1つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p>第1章 対人サービスのケースマネジメント 第2章 サービスと支援のニーズに関するアセスメント 第3章 サービス支援計画の展開 第4章 ケースマネジメントの直接サービス機能 第5章 ケースマネジメントの間接サービス機能 第6章 ケースマネジメントのモニタリング機能 第7章 ケースマネジメントの評価機能 第8章 効果的なケースマネジメント：実践の指針</p>
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	

科目名		ソーシャルアドミニストレーション特論（S）	
担当教員		木下 大生	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	本科目の到達目標は、ソーシャルアドミニストレーションとは何か、またそれを踏まえたうえで社会福祉政策とは何かを理解することを到達目標とします。	
	テキストの概要	1) R・M・ティトマス／三友雅夫(監訳) (1981) 『社会福祉政策』 恒星社厚生閣 2) イエスタ エスピン-アンデルセン / 岡沢 憲英, 宮本 太郎 (翻訳) (2001) 『福祉資本主義の三つの世界 (MINERVA 福祉ライブラリー)』 ミネルヴァ書房	
授業計画		スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。 第1回：オリエンテーション 第2,3回：ソーシャルアドミニストレーションに関する基本事項の確認1 第4,5回：ソーシャルアドミニストレーションに関する基本事項の確認2 第6,7回：ソーシャルアドミニストレーションに関連するトピック①～⑥の選定 第8,9回：ソーシャルアドミニストレーションに関連するトピック①の討議2 第10,11回：ソーシャルアドミニストレーションに関連するトピック②の討議1 第12,13回：ソーシャルアドミニストレーションに関連するトピック②の討議2 第14,15回：ソーシャルアドミニストレーションに関連するトピック③の討議1 第16,17回：ソーシャルアドミニストレーションに関連するトピック③の討議2 第18,19回：ソーシャルアドミニストレーションに関連するトピック④の討議1 第20,21回：ソーシャルアドミニストレーションに関連するトピック④の討議2 第22,23回：ソーシャルアドミニストレーションに関連するトピック⑤の討議1 第24,25回：ソーシャルアドミニストレーションに関連するトピック⑤の討議2 第26,27回：ソーシャルアドミニストレーションに関連するトピック⑥の討議1 第28,29回：ソーシャルアドミニストレーションに関連するトピック⑥の討議2 第30回：全体総括	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の实務経験 (経歴・資格等)		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		

	授業内容	
	c : 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		ソーシャルアドミニストレーション特論（R）	
担当教員		木下 大生	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	本科目の到達目標は、ソーシャルアドミニストレーションとは何か、またそれを踏まえたうえで社会福祉政策とは何かを理解することを到達目標とします。	
	テキストの概要	1) R・M・ティトマス／三友雅夫(監訳) (1981) 『社会福祉政策』 恒星社厚生閣 2) イエスタ エスピン-アンデルセン / 岡沢 憲英, 宮本 太郎 (翻訳) (2001) 『福祉資本主義の三つの世界 (MINERVA 福祉ライブラリー)』 ミネルヴァ書房	
授業計画		2つのレポート（1つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。 科目の理解を深めるために、レポートは2回提出を求めます。1回目は上に示した1)のテキスト『社会福祉政策』の第2章と第4章のレジюмеを作成します。単位認定申請レポートは、同じく上に示しました2)のテキスト『福祉資本主義の三つの世界』の第2章のレジюмеを作成します。	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		プログラムエバリュエーション特論（S）
担当教員		渡邊 浩文
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	<p>本科目の到達目標は、社会福祉の現場におけるプログラム開発及びその評価に関する実践力を身に着けることです。</p> <p>近年、社会福祉の問題の解決に向けた個々の社会福祉実践や組織的な介入プログラムは、科学的な効果評価が求められるようになってきています。また、ソーシャルワーカーには、いわゆるはざまのニーズといわれるような社会福祉ニーズを見える化し、プログラム化する能力が求められています。本科目では、社会問題の改善に向けた個々の社会福祉実践や組織的かつ継続的なプログラムについて、開発、あるいはその改善を図り、より効果的な実践やプログラムに発展させていくことを目的としたプログラム構築及びその評価の方法について検討します。具体的には、実践やプログラムの機能、効果を科学的かつ体系的に把握、評価、検討していくための方策について、社会調査などの科学的手法を活用しつつ、社会福祉実践に根ざしたアプローチ法の検討を行います。</p>
	テキストの概要	スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。
授業計画		<p>スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。</p> <p><スクーリング></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プログラム評価の概要 2. プログラムの記述 3. プログラムの目的の設定 4. 研究計画1 5. 研究計画2 6. プログラム評価の実行とデータの分析1 7. プログラム評価の実行とデータの分析2 8. プログラム評価の結果の報告 9. プログラムの記述・目的の設定の演習① 10. プログラムの記述・目的の設定の演習② 11. 研究計画の演習1 12. 研究計画の演習3 13. 研究計画の演習4 14. プログラム評価の実行とデータの分析の演習1 15. プログラム評価の実行とデータの分析の演習2 16. まとめ <p><自宅学習></p> <p>①『プログラム評価研究の方法（臨床心理学研究法 第7巻）』</p>

	第1章 プログラム評価とは 第2章 事前調査とプログラムの検討 第3章 プログラム評価の計画と実施 第4章 プロセス評価 第5章 アウトカム評価 第6章 実験的手法を用いたプログラム評価 第7章 プログラム評価における測定の問題 第8章 さまざまな評価アプローチ 第9章 評価実施についての諸事項 ②『プログラム評価入門—行政サービス、介護、福祉サービス等ヒューマンサービス分野を中心に』 第1章 プログラム評価概論 第2章 プログラム評価の包括的な定義 第3章 ステップⅠ プログラムの記述 第4章 ステップⅡ プログラムの目的の設定 第5章 ステップⅢ 研究計画 第6章 ステップⅣ・Ⅴ プログラム評価の実行とデータの分析 第7章 ステップⅥ プログラム評価の結果の報告
成績評価の方法	単位認定試験
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)
	授業内容との関連性
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等
	授業内容
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目
	実習先・実習の目的
備考	

科目名	プログラムエバリュエーション特論（R）
担当教員	渡邊 浩文
授業方法	講義
科目の概要	<p>本科目の到達目標は、社会福祉の現場におけるプログラム開発及びその評価に関する実践力を身に着けることです。</p> <p>近年、社会福祉の問題の解決に向けた個々の社会福祉実践や組織的な介入プログラムは、科学的な効果評価が求められるようになってきています。また、ソーシャルワーカーには、いわゆるはざまのニーズといわれるような社会福祉ニーズを見える化し、プログラム化する能力が求められています。本科目では、社会問題の改善に向けた個々の社会福祉実践や組織的かつ継続的なプログラムについて、開発、あるいはその改善を図り、より効果的な実践やプログラムに発展させていくことを目的としたプログラム構築及びその評価の方法について検討します。具体的には、実践やプログラムの機能、効果を科学的かつ体系的に把握、評価、検討していくための方策について、社会調査などの科学的手法を活用しつつ、社会福祉実践に根ざしたアプローチ法の検討を行います。</p>
	<p>テキストの概要</p> <p>2つのレポート（1つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p>
授業計画	<p>2つのレポート（1つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p><自宅学習></p> <p>①『プログラム評価研究の方法（臨床心理学研究法 第7巻）』</p> <p>第1章 プログラム評価とは</p> <p>第2章 事前調査とプログラムの検討</p> <p>第3章 プログラム評価の計画と実施</p> <p>第4章 プロセス評価</p> <p>第5章 アウトカム評価</p> <p>第6章 実験的手法を用いたプログラム評価</p> <p>第7章 プログラム評価における測定の問題</p> <p>第8章 さまざまな評価アプローチ</p> <p>第9章 評価実施についての諸事項</p> <p>②『プログラム評価入門—行政サービス、介護、福祉サービス等ヒューマンサービス分野を中心に』</p> <p>第1章 プログラム評価概論</p> <p>第2章 プログラム評価の包括的な定義</p> <p>第3章 ステップⅠ プログラムの記述</p> <p>第4章 ステップⅡ プログラムの目的の設定</p> <p>第5章 ステップⅢ 研究計画</p> <p>第6章 ステップⅣ・Ⅴ プログラム評価の実行とデータの分析</p>

	第7章 ステップVI プログラム評価の結果の報告	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名	チームアプローチ特論（S）
担当教員	矢野 明宏
授業方法	講義
科目の概要	<p>到達目標</p> <p>本講の到達目標は、ソーシャルワークにおけるチームアプローチの概念整理をし、日頃の実践に有効に活かせる高度な実践力・支援力を身につけることです。</p> <p>そのことによって、本専攻の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の以下に示してある力の一端を育んでいくことにもなります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リスクマネジメント等を含む組織運営管理能力、組織デザイン・改革力、福祉資源開発力等を有していること。 2. 困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等を有していること。 3. 社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等を有していること。
	<p>テキストの概要</p> <p>テキスト構成としては、7章立てとなっています。</p> <p>第1章では、ケアチームの概念について、整理されています。そもそものチームを中心とした概念整理をしています。</p> <p>第2章では、チームワークの難しさについて整理しています。チームアプローチの重要性は遠い鴨から叫ばれていますが、皆さんは、この章にあるような困難さのために、チームが機能していない現実を目の当たりにしているかもしれません。</p> <p>第3章では、チームワークの効果について整理しています。チームワークの難しさを克服すれば、チームの効果が明確になっていきます。</p> <p>第4章で</p>
授業計画	<p>スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。</p> <p><スクーリング></p> <p>第1回：イントロダクション・自分の思うチームアプローチとは</p> <p><基本整理編></p> <p>第2回：今、なぜチームアプローチなのか？</p> <p>第3回：ソーシャルワーク専門職関係の法律、倫理綱領にみるチームアプローチ</p> <p>第4回：地域包括支援センター等にみるチームアプローチ</p> <p>第5回：チームアプローチの定義</p> <p>第6回：他職種チームについて</p> <p>第7回：包括的支援システムとネットワーク</p> <p><実践事例編></p> <p>第8回：チームアプローチの実際①在宅高齢者の権利擁護</p> <p>第9回：チームアプローチの実際②終末期緩和ケア</p> <p>第10回：チームアプローチの実際③居宅介護支援事業所を中心とした支援</p> <p>第11回：チームアプローチの実際④精神障害者の退院支援</p>

	<p>第 12 回：チームアプローチの実際⑤障害者の就労支援 <まとめ編></p> <p>第 13 回：多職種とのパートナーシップ、チームアプローチの阻害要因</p> <p>第 14 回：チームをめぐる倫理問題と個人情報保護</p> <p>第 15 回：チームコンピテンス</p> <p>第 16 回：総括</p> <p><自宅学習></p> <p>第 1 章 チームケアの概念</p> <p>第 2 章 チームワークの難しさ</p> <p>第 3 章 チームワークの効果</p> <p>第 4 章 チームワークの工夫</p> <p>第 5 章 リーダーシップ論</p> <p>第 6 章 組織管理論</p> <p>第 7 章 われわれの課題</p>	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		チームアプローチ特論（R）	
担当教員		矢野 明宏	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>本講の到達目標は、ソーシャルワークにおけるチームアプローチの概念整理をし、日頃の実践に有効に活かせる高度な実践力・支援力を身につけることです。</p> <p>そのことによって、本専攻の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の以下に示してある力の一端を育んでいくことにもなります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リスクマネジメント等を含む組織運営管理能力、組織デザイン・改革力、福祉資源開発力等を有していること。 2. 困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等を有していること。 3. 社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等を有していること。 	
	テキストの概要	<p>テキスト構成としては、7章立てとなっています。</p> <p>第1章では、ケアチームの概念について、整理されています。そもそものチームを中心とした概念整理をしています。</p> <p>第2章では、チームワークの難しさについて整理しています。チームアプローチの重要性は遠い鳴から叫ばれていますが、皆さんは、この章にあるような困難さのために、チームが機能していない現実を目の当たりにしているかもしれません。</p> <p>第3章では、チームワークの効果について整理しています。チームワークの難しさを克服すれば、チームの効果が明確になっていきます。</p> <p>第4章で</p>	
授業計画		<p>2つのレポート（1つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。</p> <p><自宅学習></p> <p>第1章 チームケアの概念</p> <p>第2章 チームワークの難しさ</p> <p>第3章 チームワークの効果</p> <p>第4章 チームワークの工夫</p> <p>第5章 リーダーシップ論</p> <p>第6章 組織管理論</p> <p>第7章 われわれの課題</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
		担当教員の実務経験（経歴・資格等）	

	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		ソーシャルワークリサーチ特論（S）	
担当教員		渡辺 裕一	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標		
	テキストの概要		
授業計画			
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		ソーシャルワークリサーチ特論 (R)	
担当教員		渡辺 裕一	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標		
	テキストの概要		
授業計画			
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a : 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)		
	授業内容との関連性		
	b : 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c : 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		ケースカンファレンス特論（S）	
担当教員		高橋 幸三郎	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	① ケースカンファレンスの2本柱である「事例検討」と「事例研究」について学習する ② 上記2本柱の学習に「質的調査（研究）」をどのように役立てるかを理解する ③ 社会福祉現場における当事者ニーズに関わる調査能力を身に付ける	
	テキストの概要	「質的社会調査の基本技法：援助と説明に必要な情報収集と分析について」『武蔵野大学人間科学研究所年報3号』平成26年 79 - 93. 「社会福祉援助に関わる説明内容の比較的考察：質的研究と事例研究カンファレンスで明らかにできること」『武蔵野大学人間科学研究所年報第5号』平成28年 135 - 148	
授業計画		スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで2単位を修得します。 第1回 授業の進め方 第2回 ケースカンファレンスに関する共通理解 第3回 質的調査とケースカンファレンスの違い① 第4回 質的調査の基本技法② 第5回 質的調査の基本技法③ 第6回 質的調査の基本技法④ 第7回 質的調査の基本技法⑤ 第8回 質的調査の基本技法⑥ 第9回 ケースカンファレンスの基本：事例検討・事例研究① 第10回 事例検討の基本② 第11回 事例研究の基本③ 第12回 事例検討と事例研究の方法論上の違い④ 第13回 実践事例に学ぶ① 第14回 実践事例に学ぶ② 第15回 実践事例に学ぶ③ 第16回 総括：ケースカンファレンスの技法	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
		担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
		授業内容との関連性	

	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		ケースカンファレンス特論（R）	
担当教員		高橋 幸三郎	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	① ケースカンファレンスの2本柱である「事例検討」と「事例研究」について学習する ② 上記2本柱の学習に「質的調査（研究）」をどのように役立てるかを理解する ③ 社会福祉現場における当事者ニーズに関わる調査能力を身に付ける	
	テキストの概要	「質的社会調査の基本技法：援助と説明に必要な情報収集と分析について」『武蔵野大学人間科学研究所年報3号』平成26年 79 - 93. 「社会福祉援助に関わる説明内容の比較的考察：質的研究と事例研究カンファレンスで明らかにできること」『武蔵野大学人間科学研究所年報第5号』平成28年 135 - 148	
授業計画		2つのレポート（1つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。 第1論文 質的社会調査の基本的な方法：実践と説明に求められるデータの収集と分析 第2論文 社会福祉援助に関わる「説明」内容の比較的考察：質的研究と事例研究カンファレンスで明らかにできること	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		ソーシャルワークリサーチ演習
担当教員		渡辺 裕一
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	<p>本演習の到達目標は、社会福祉現場及びソーシャルワーク実践における当事者のニーズを把握する調査能力や福祉資源開発の根拠を示すためのエビデンスを得る方法・技術に関する知識を身につけることとします。具体的には、個人の実践の経過、判断・行動の根拠、成果と課題等について客観的に記述・言語化し、検証するための企画（リサーチデザイン）、研究仮説の設定と検証、研究方法の適切性の吟味、先行研究の資料収集及び精査の方法等を学び、自らの研究計画を作成します。この方法・技術に関する知識を身につけることは、実践の評価等に応用が可能であり、根拠をもって社会福祉学に関する専門的な内容の論文執筆を行うための知識として必要です。ソーシャルワーカーがリサーチの技術を必要とする意味、ソーシャルワークにおける先行研究のレビューの方法、リサーチのデザイン（研究の設計と手順）、量的・質的なデータの分析方法を身につけられるよう演習に取り組みます。</p>
	テキストの概要	なし
授業計画		<p>本科目はスクーリングだけの学習方法で開講されます。スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで1単位を修得します。</p> <p><スクーリング></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（本演習の意義と目的、成績評価について他） 2. 問い、問題意識を発表する 3. 先行研究（文献）を探し、文献リストを作成する 4. 先行研究のレビューの発表① 5. 先行研究のレビューの発表② 6. 先行研究のレビューの発表③ 7. 先行研究のレビューの発表④ 8. 研究計画の発表① 9. 研究計画の発表② 10. 研究計画の発表③ 11. 研究計画の発表④ 12. 研究計画の発表⑤ 13. 研究計画の発表⑥ 14. 研究計画の発表⑦ 15. 研究計画の発表⑧ 16. まとめ
成績評価の方法		単位認定試験
		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目

実践的教育を行う 授業科目の種別	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b: 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c: 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名	フィールドワーク演習	
担当教員	小俣 智子 大崎 広行 木下 大生 熊田 博喜 稗田 里香 野口 友紀子 渡辺 裕一 渡邊 浩文	
授業方法	講義	
科目の概要	到達目標	<p>フィールドワーク演習は、専攻のディプロマポリシーに記載している</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等を有していること。 2. リスクマネジメント等を含む組織運営管理能力、組織デザイン・改革力、福祉資源開発力等を有していること。 3. 社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーク力等を有していること。 <p>を社会福祉の実践現場を通して受講者自らの実践を振り返り、スーパービジョンを受けることによって涵養することを目的とする科目である。</p>
	テキストの概要	テキストは原則使用しないが、こちらも各担当教員の指示に従うこと
授業計画	<p>本科目の学習方法はスクーリングです。</p> <p>スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで1単位を修得します。</p> <p>受講者自らが作成した実践(実習)および調査計画に従って、フィールドワークを進め、実践(実習)および調査の実施指導を担当教員から適宜受け、計画終了後、まとめを行うと共に成果物を作成する。</p>	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
実習先・実習の目的		

科目名	特定課題研究演習（人間__実践）
担当教員	大崎 広行 木下 大生 熊田 博喜 野口 友紀子 渡辺 裕一 渡邊 浩文
授業方法	講義
科目の概要	<p>「特定課題研究演習」は、指定された課題に基づいて特定課題研究論文を執筆する科目です。必修科目なので、この科目の単位を取得しなければ、大学院を修了することはできません。</p> <p>一般的に大学院では修士論文の執筆が必修になっていますが、本学の人間社会研究科では、修士論文に相当するものが特定課題研究論文になります。</p> <p>「人間社会研究科」という研究科名が示しているように、研究対象は人間です。人間を研究する場合、さまざまな学問分野（哲学、宗教学、心理学、生物学、社会学、経済学など）からのアプローチが可能です。しかし、近代以降、それぞれの学問分野からの個別のアプローチでは人間を理解することはできないという反省から、学問分野を横断し、総合的に人間にアプローチする「人間学」の必要性が求められました。最近では「総合人間学」という言い方もされています。</p> <p>人間社会研究科実践福祉学専攻も、このようなアプローチによって人間を研究することを目的としています。しかし、実践福祉学専攻では、研究とその方法の修得を通して、困難事例への高い相談援助技能はもちろんのこと、ケースマネジメント力、人材育成力、他機関・他専門職との連携力、組織運営管理力、福祉資源開発力、研究力等を担保する具体的実践技能の理論化を行うことを目的としています。</p> <p>従って、本学の人間社会研究科では、方向性や問題意識を明確にするために、修士論文ではなく、指定した課題に基づく特定課題研究論文にしました。</p> <p>研究には独創性が求められることがあります。しかし、研究において最も重要なのは独創的な結論そのものではなく、どのような方法と手続きによってその結論を導き出したのかという研究方法になります。どんなに独創的な結論であっても、いい加減な研究方法によって導かれたものであるなら、それは研究による結果ではなく、ただの思いつきにしか過ぎません。</p> <p>以上の点から、特定課題研究論文では、あえて独創的な結論は求めずに、確実な研究方法を求めます。「特定課題研究演習」という科目の目的は、研究とはどのようなものであり、どのような方法で進めるのかという、研究能力を身に付けることです。研究能力を身に付けることができれば、大学院修了後、関心のあるテーマを各自で研究することができます。</p>
	到達目標
テキストの概要	なし
授業計画	<p>授業計画に記載の内容を行い、合格することで4単位を修得します。</p> <p>(2019年)</p> <p>12月3日まで 「研究計画書」提出</p> <p>12月中旬 指導教員通知または再提出通知</p> <p>12月25日 12:00 正午まで 「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出</p>

	<p>(※指導教員を通知された者のみ)</p> <p>(2020年)</p> <p>1月5日 12:00 正午まで 「研究計画書」再提出 (※該当者のみ)</p> <p>1月中旬 指導教員通知 (※「研究計画書」再提出者のみ)</p> <p>1月19日 12:00 正午まで 「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出 (※「研究計画書」再提出者のみ)</p> <p>2月8日 中間発表1</p> <p>2月11日まで 指導教員決定通知 (「指導教員変更願」の結果通知を含む)</p> <p>2月中旬 履修登録</p> <p>3月～5月 第1回面接指導</p> <p>6月 「中間発表」申込</p> <p>8月10日まで 「研究経過確認申請」提出</p> <p>8月上旬から9月上旬 中間発表2</p> <p>12月10日まで 「論文提出許可願」提出</p> <p>(2021年)</p> <p>1月10日まで 「論文」提出 「論文提出届」提出</p> <p>1月下旬か2月上旬 公聴会・口述試問</p> <p>2月上旬 成績通知</p> <p>※第2回目以降の面接指導は、指導教員と履修生が相談して回数と時期を決定します。</p> <p>8月10日まで 「清書論文」提出「清書論文提出届」提出 (※半年繰り上げ希望者のみ)</p> <p>8月下旬か9月上旬 公聴会・口述試問 (※半年繰り上げ希望者のみ)</p> <p>9月中旬 成績通知 (※半年繰り上げ希望者のみ)</p>	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の 実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との 関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の 経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の 目的	
備考		

